



若年者に対する刑事法制の在り方に関する勉強会

# 若年刑法犯はなぜ減少したのか

～社会緊張理論と文化学習理論から考える～

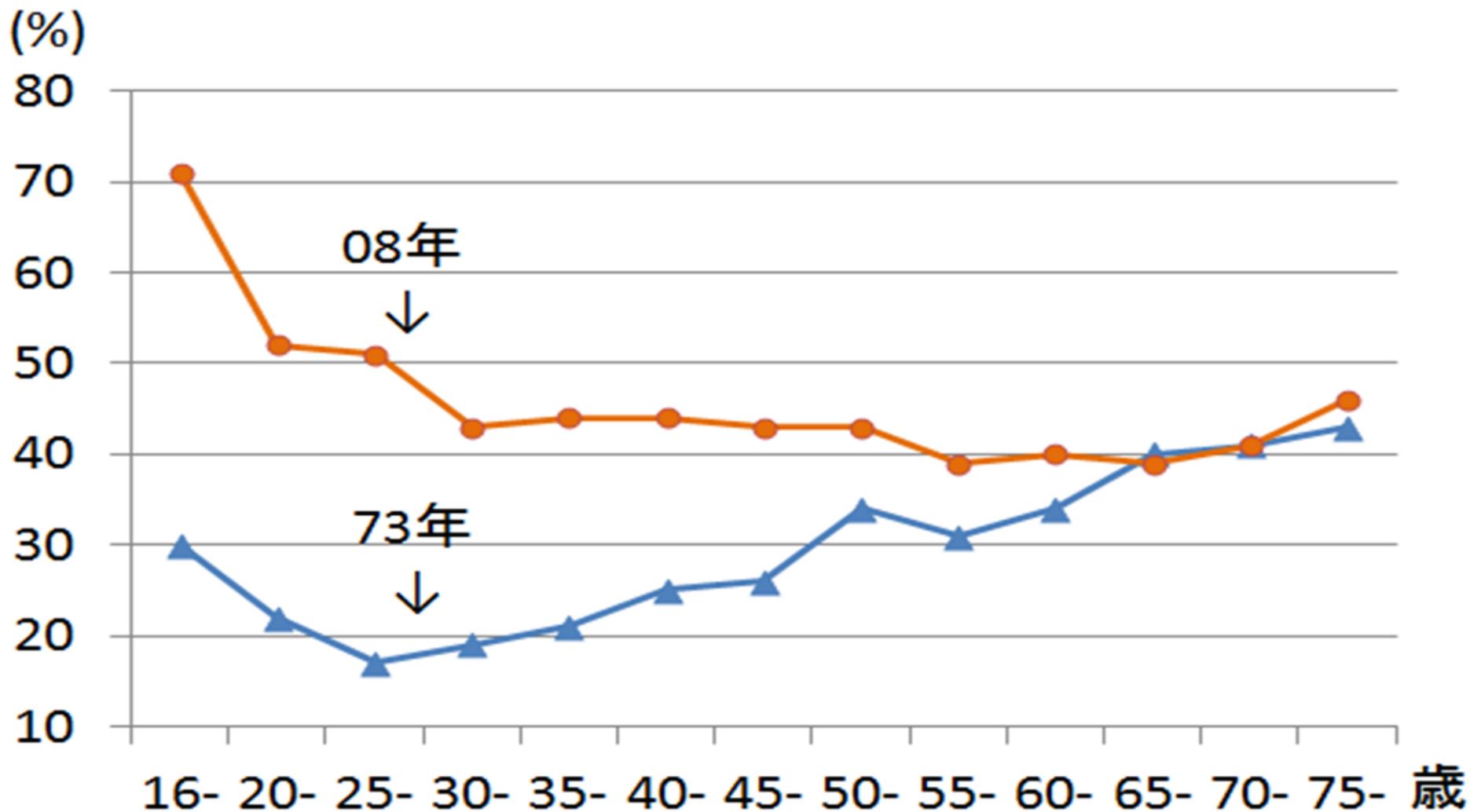
## ◎配布資料◎

法務省

土井隆義（筑波大学）

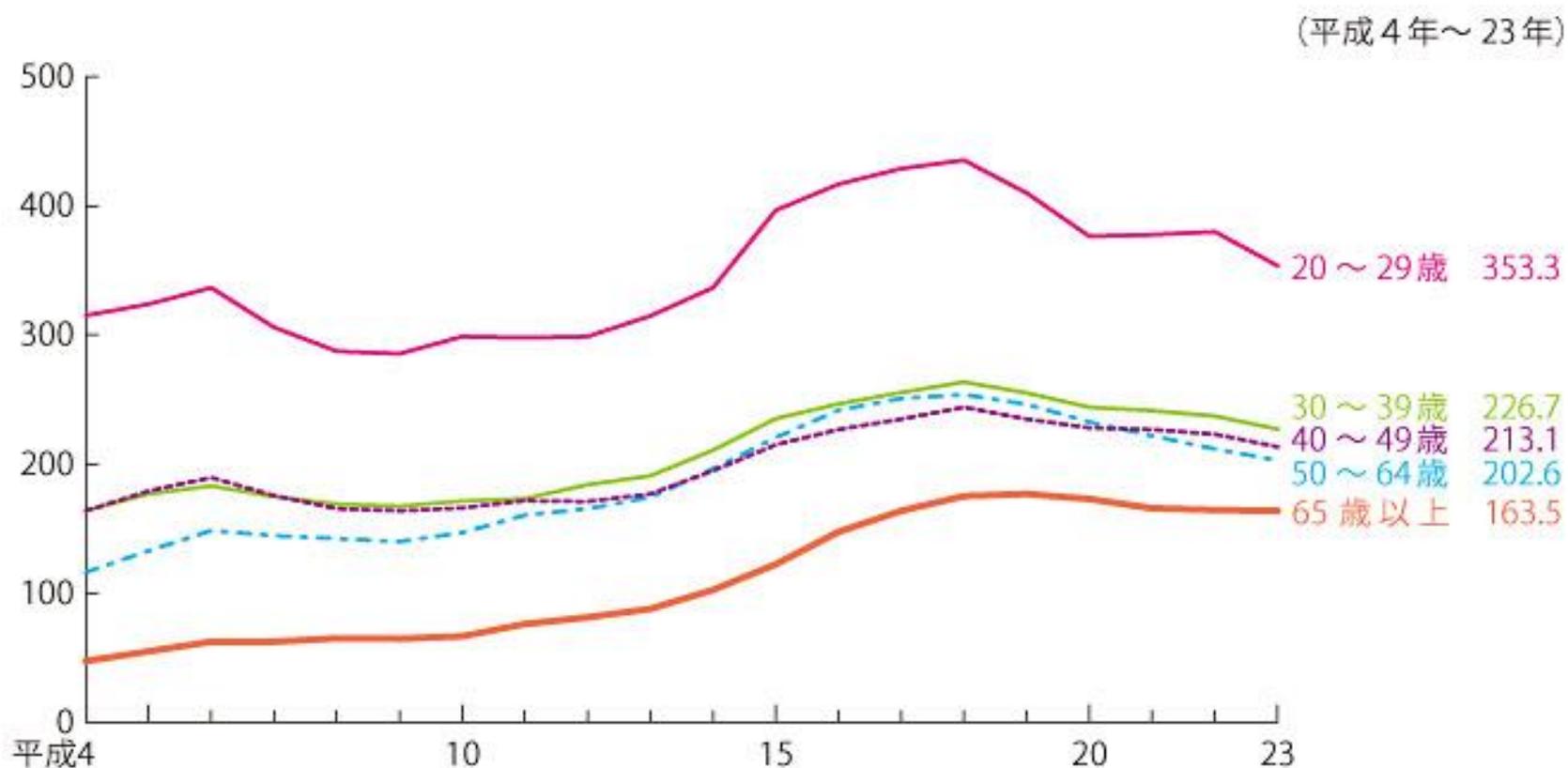
# 生活全般に満足の割合

(『現代日本人の意識構造(第7版)』NHK出版から転載)



# 一般刑法犯 検挙人員の人口比の推移(年齢層別)

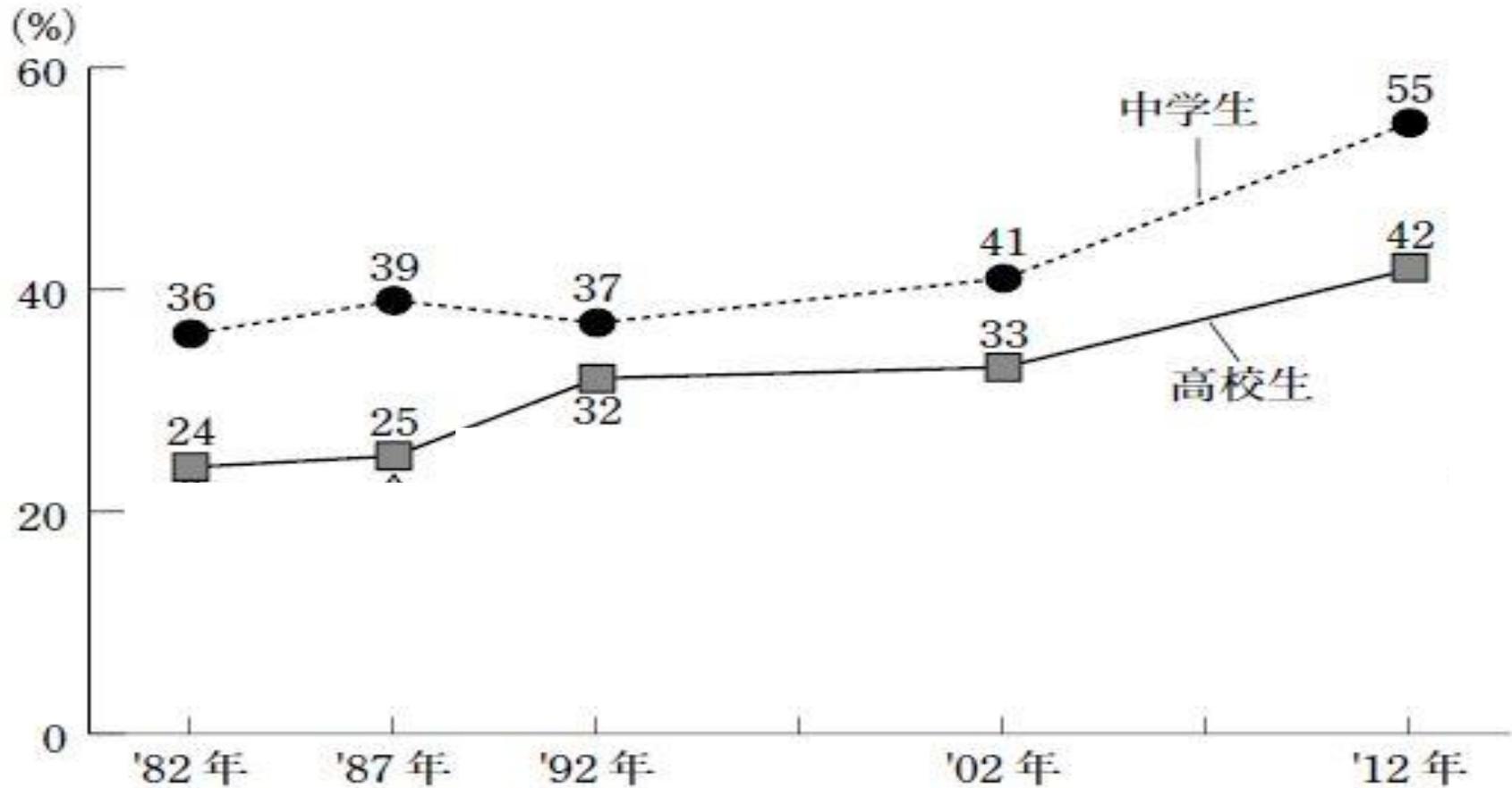
(『平成24年版 犯罪白書』第4編/第4章/第1節から転載)



- 注 1 警察庁の統計及び総務省統計局の人口資料による。  
2 犯行時の年齢による。  
3 「人口比」は、各年齢層10万人当たりの一般刑法犯検挙人員をいう。

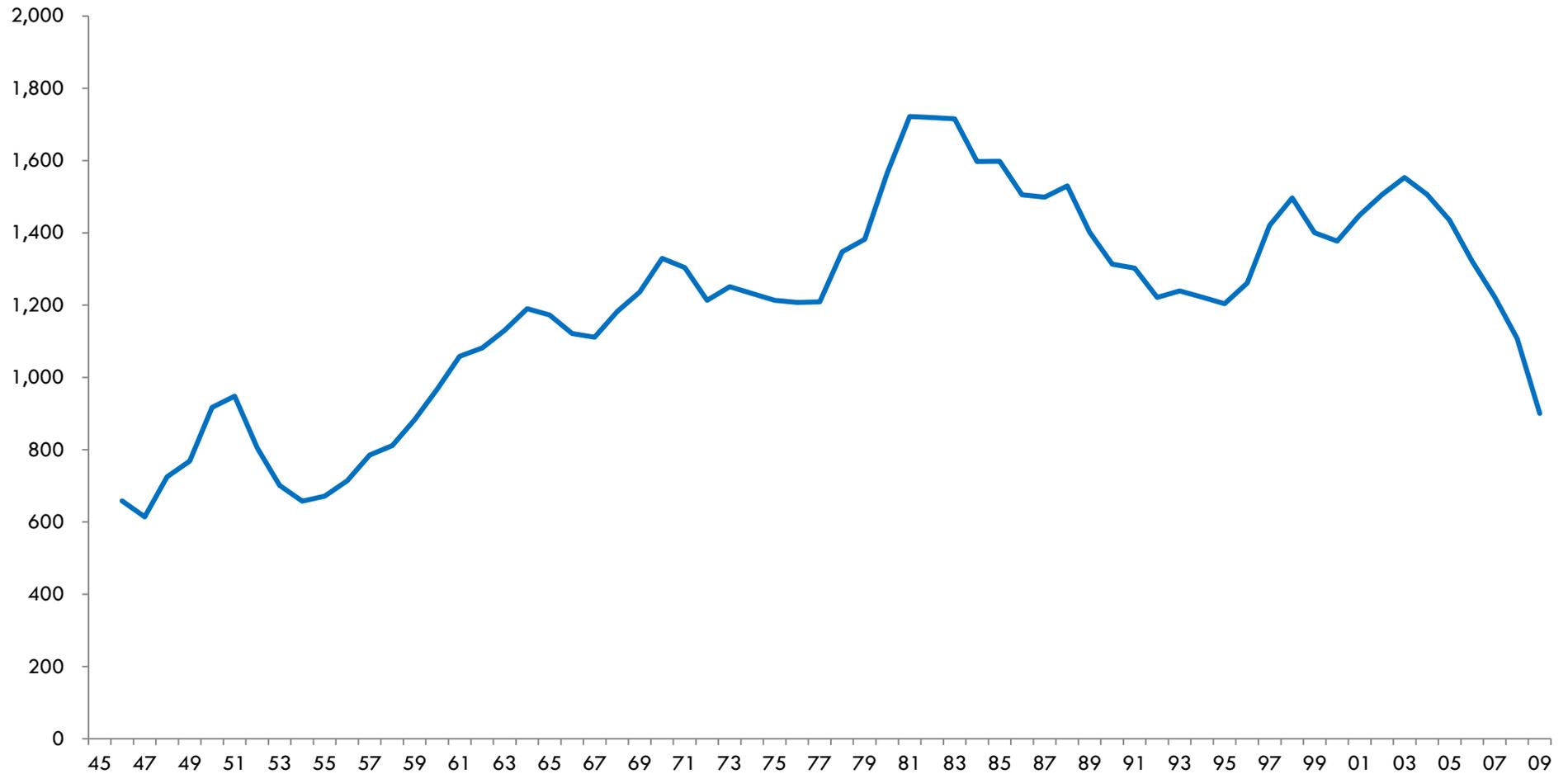
# 今はとても幸せだ

(NHK放送文化研究所『放送研究と調査』2013年3月号から転載)



# 少年刑法犯の推移(少年人口比)

(警察庁『犯罪統計書』から作成)



# 犯罪社会学における原因論

## 社会緊張理論

目標と手段の乖離  
《欲望の理論》

押し出し要因  
マクロ変数

不満の理論

## 文化学習理論

逸脱世界への接触  
《関係の理論》

引き込み要因  
ミクロ変数

魅惑の理論

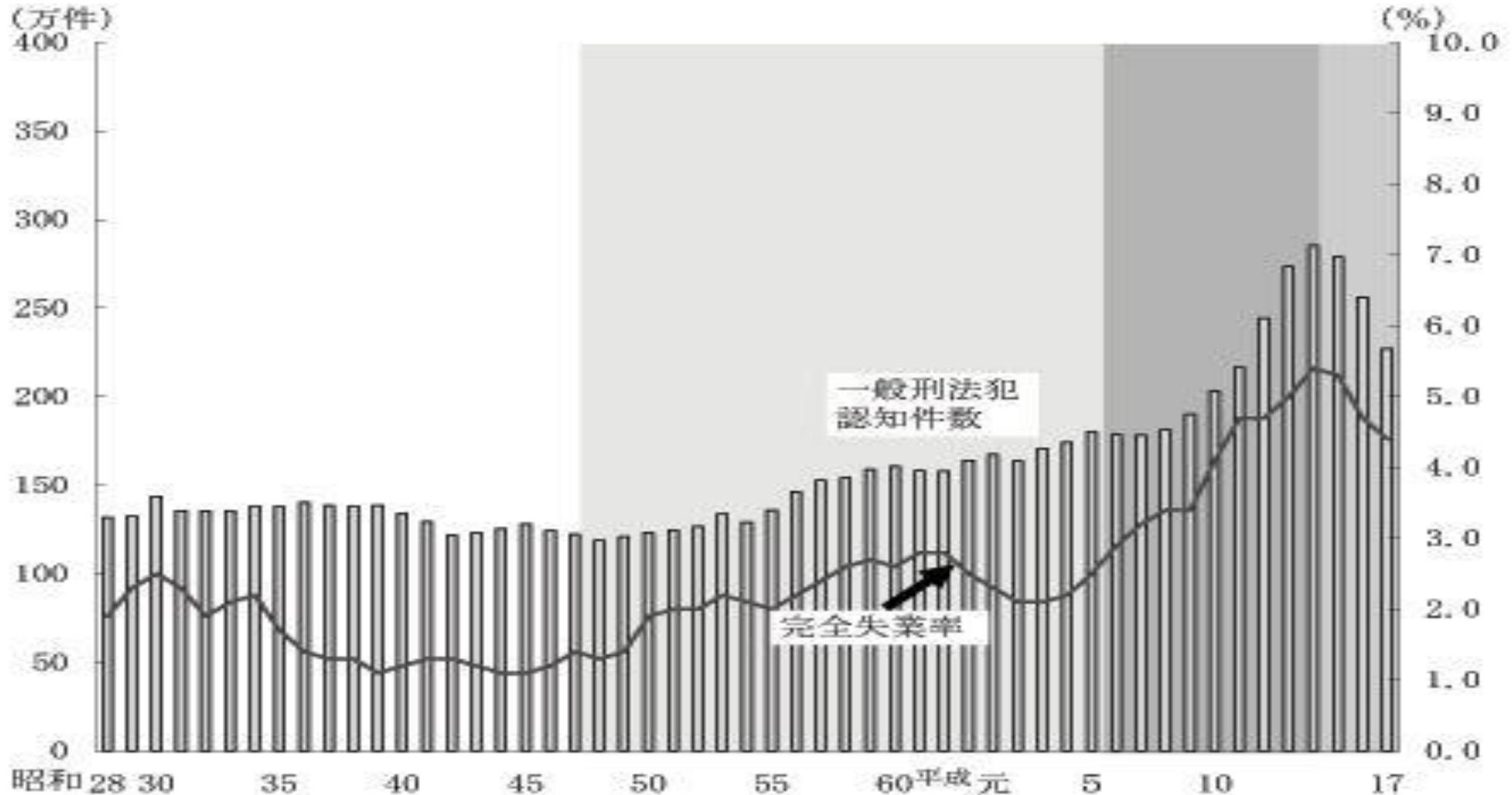
# 相対的不満

「貧しい人びとは、彼らを取りまく他の人びとが富んでいるときに、**高い犯罪率**を示す...彼らの周囲の人びとが貧しい場合は**低い犯罪率**を示す...したがって、特定の地域における犯罪量を説明するのに必要な鍵となる要因は、**貧しい人びとの数**ではなく、**富んだ人びとの数**である。」

G・ヴォルド, T・バーナード, 平野龍一・岩井弘融監訳『犯罪学』  
東京大学出版会, 1990年, 156頁

# 刑法犯認知件数と失業率の推移

(近藤日出夫「最近の犯罪動向の分析」『罪と罰』日本刑事政策研究会から転載)

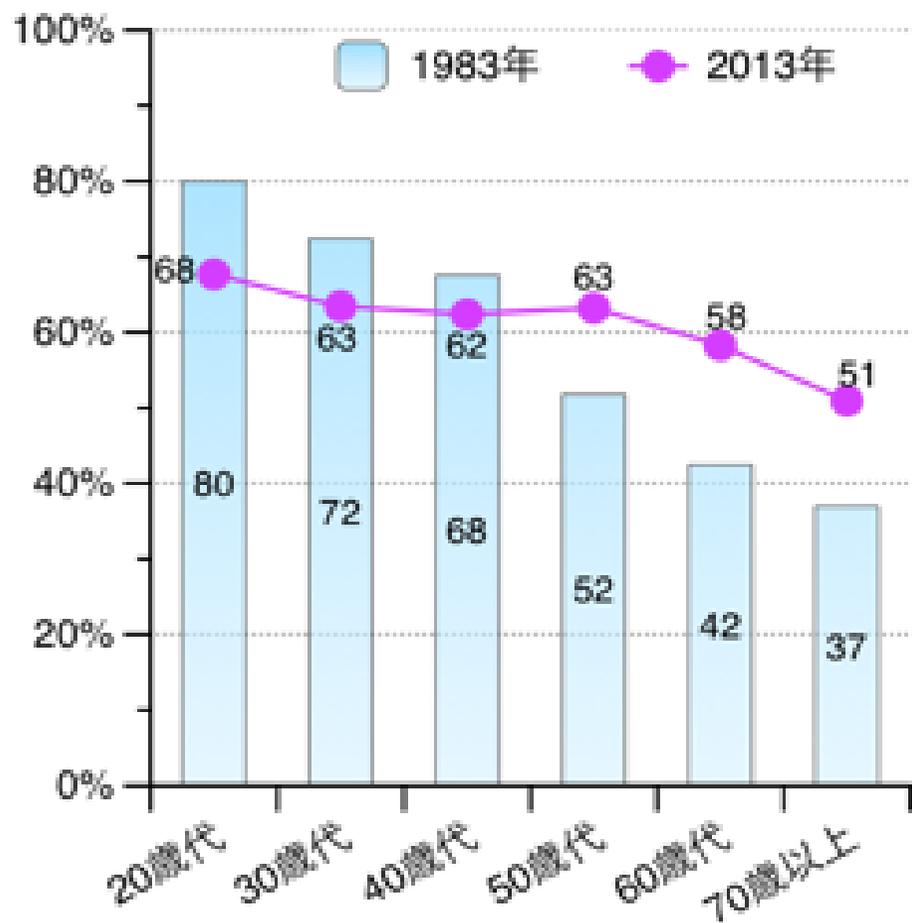


注 警察庁の統計及び総務省統計局「労働力調査年報」による。

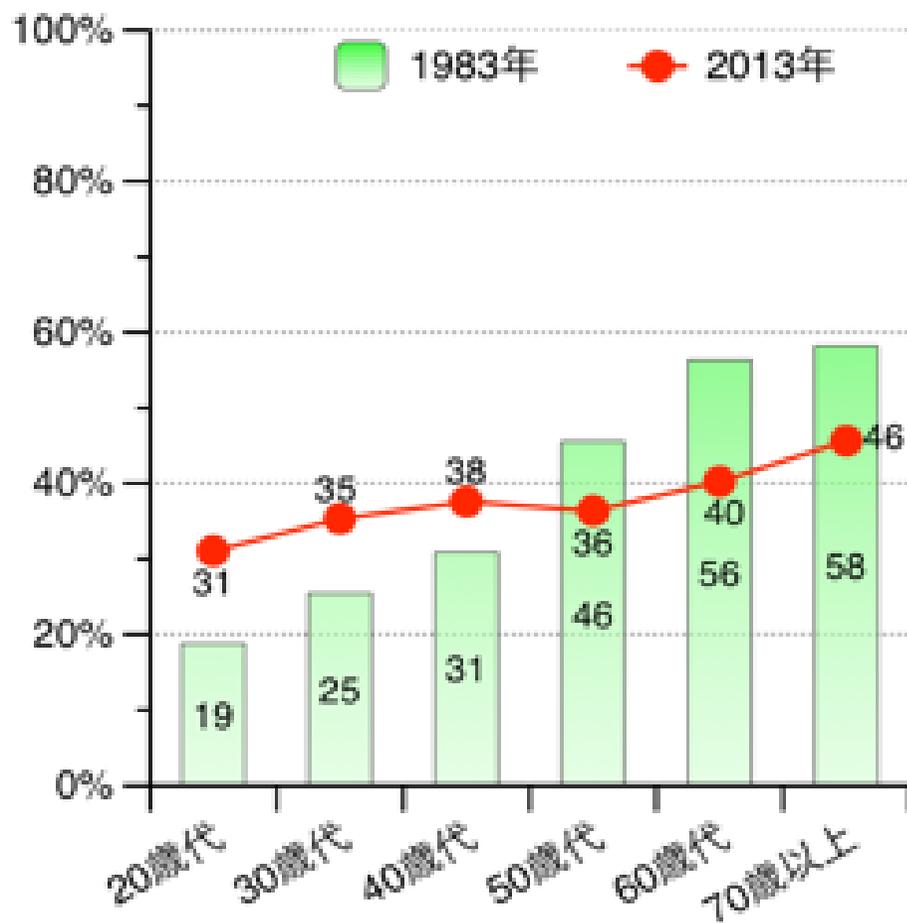
# 自分の可能性を試してみたいか

(統計数理研究所「日本人の国民性」調査から転載)

仕事や遊びなどで自分の可能性をためすために、できるだけ多くの経験をした

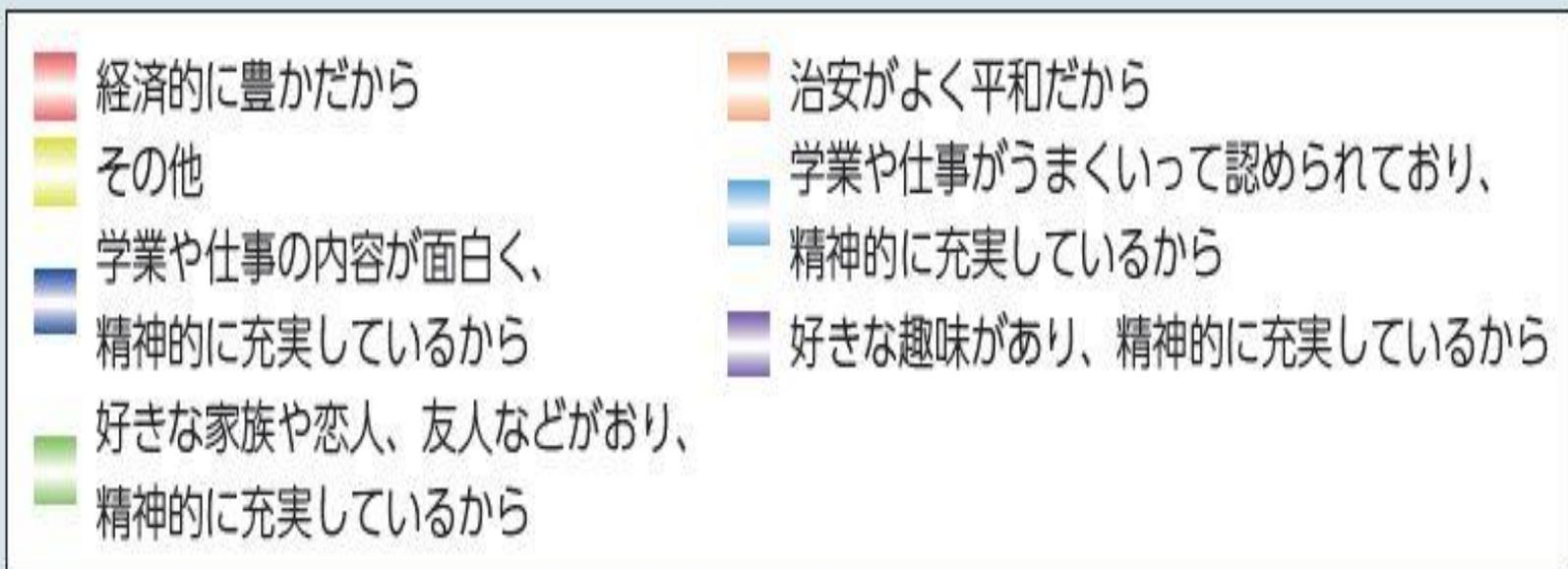
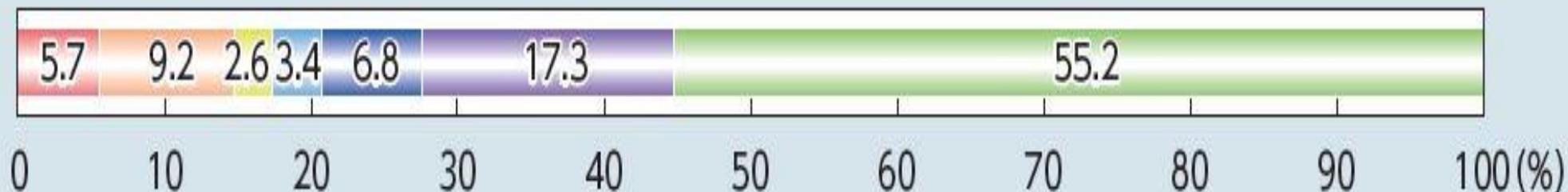


わずらわしいことはなるべく避けて、平穏無事に暮らしたい



# 生活に満足の原因(15歳～39歳)

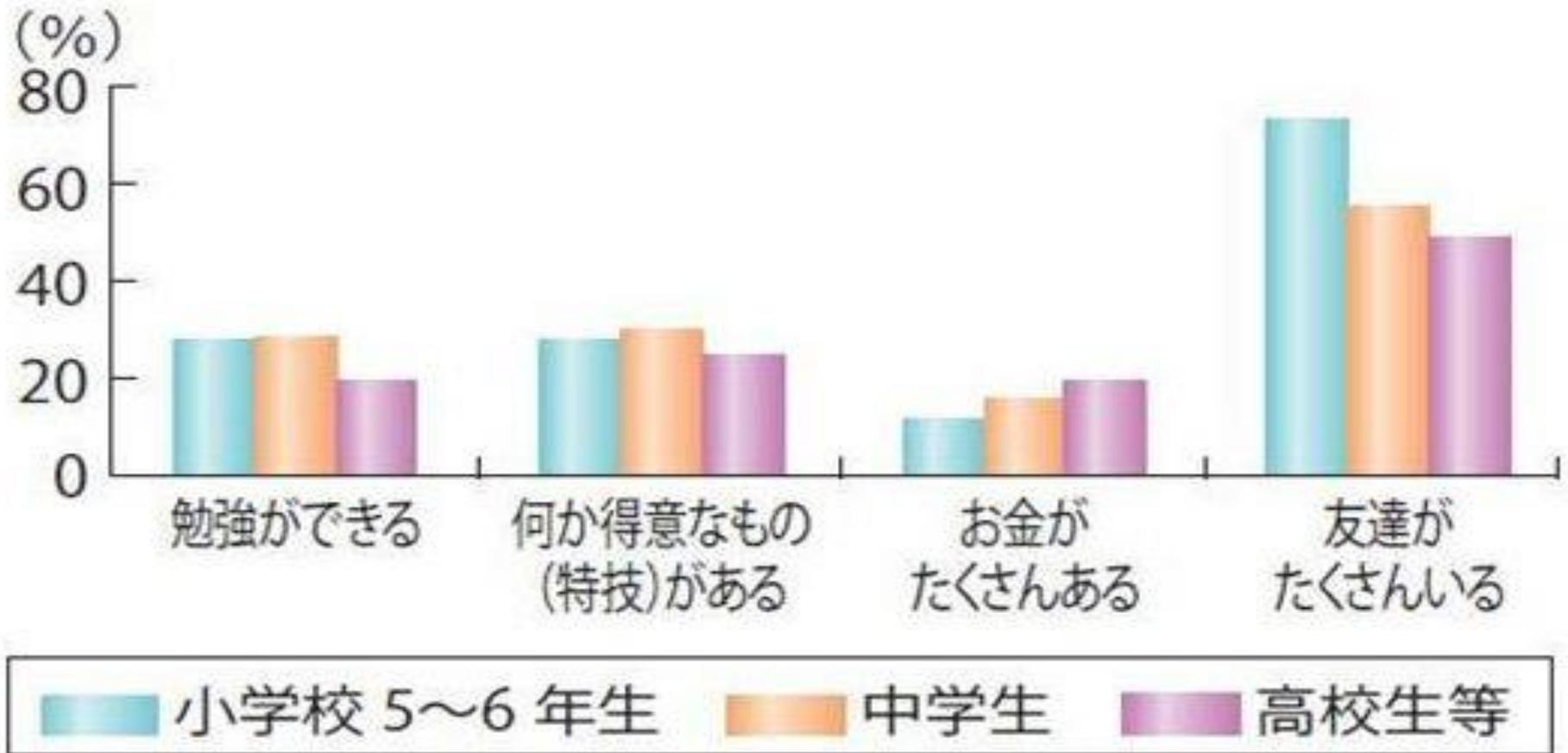
(厚生労働省『平成25年度厚生労働白書』から転載)



資料：厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託「若者の意識に関する調査」(2013年)

# 大切だと思うこと(平成21年)

(『平成25年版 子ども・若者白書』から転載)



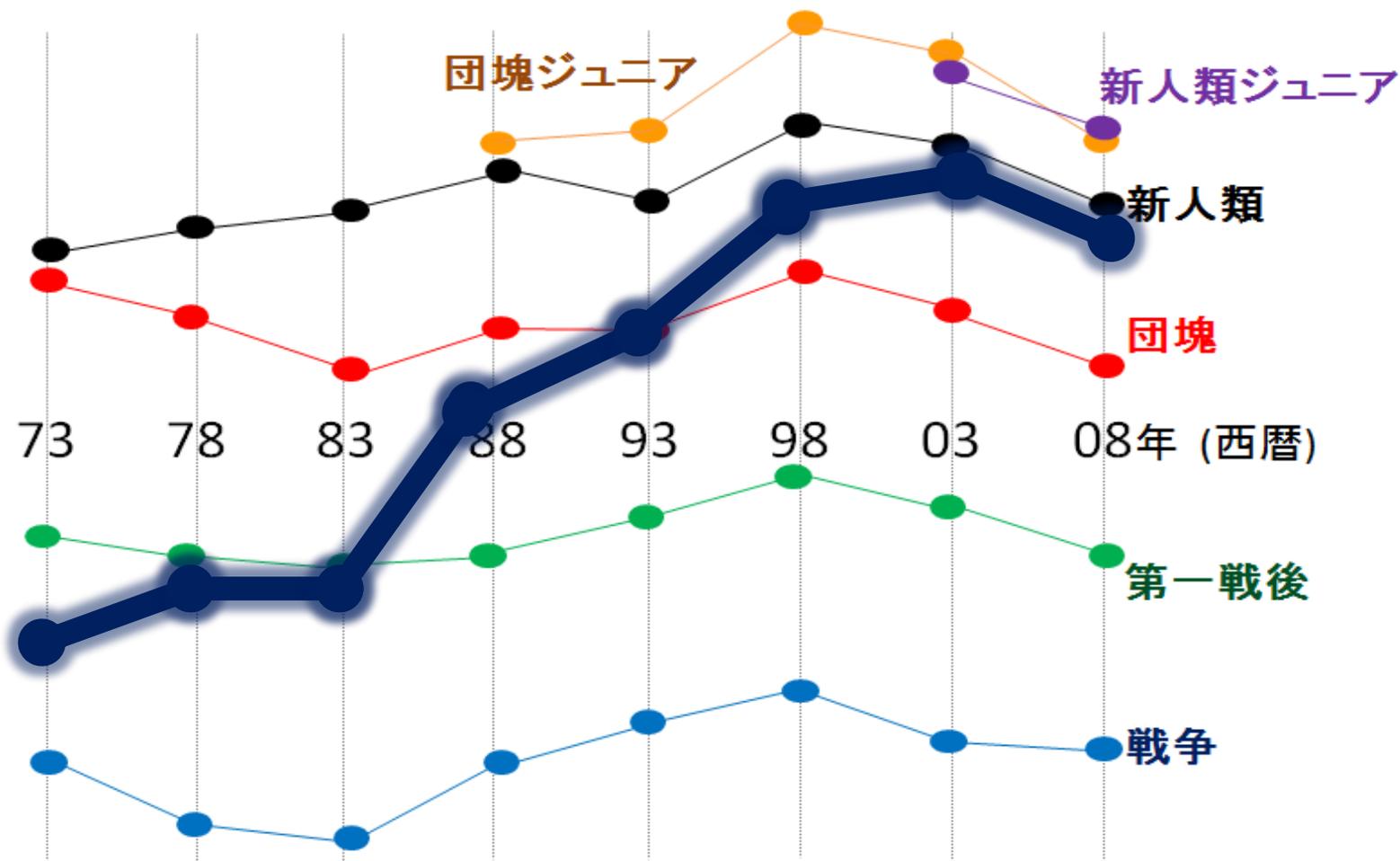
(出典) 厚生労働省「全国家庭児童調査」

# 日本人の意識の変化

(『現代日本人の意識構造(第7版)』NHK出版から作成)

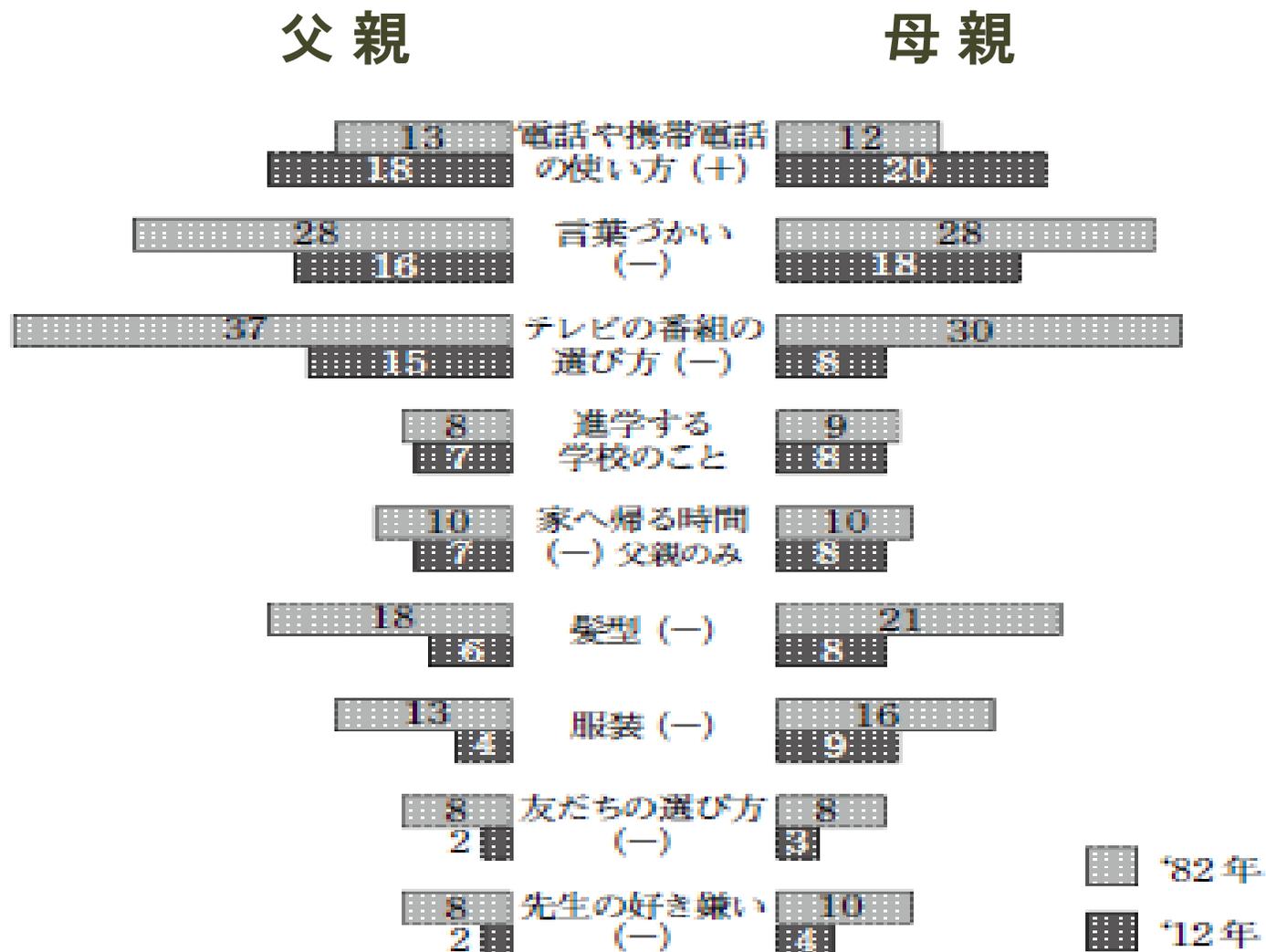
伝統離脱

伝統志向

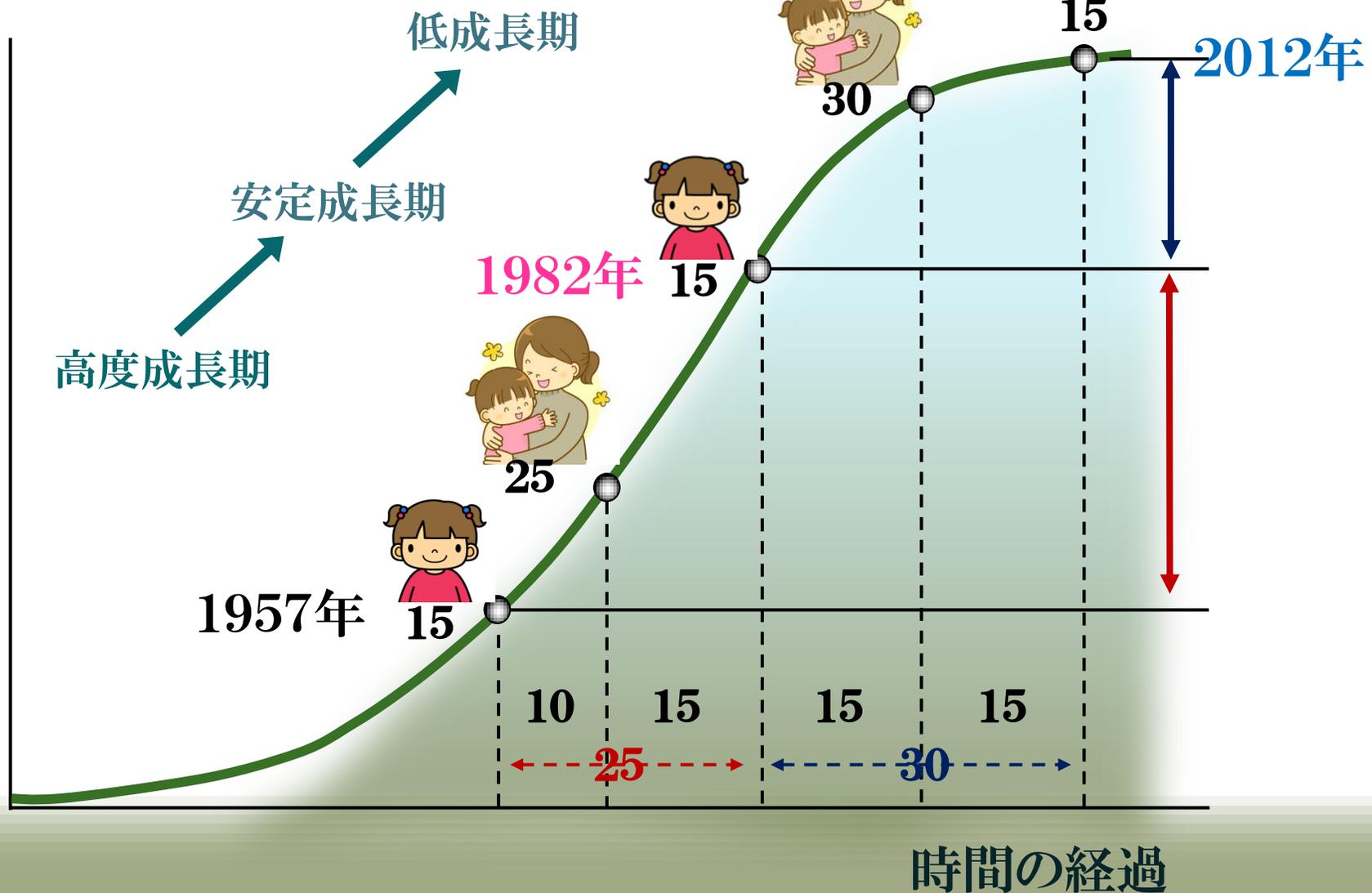


# 子どもと意見が合わないこと

(NHK放送文化研究所『放送研究と調査』2013年2月号から転載)



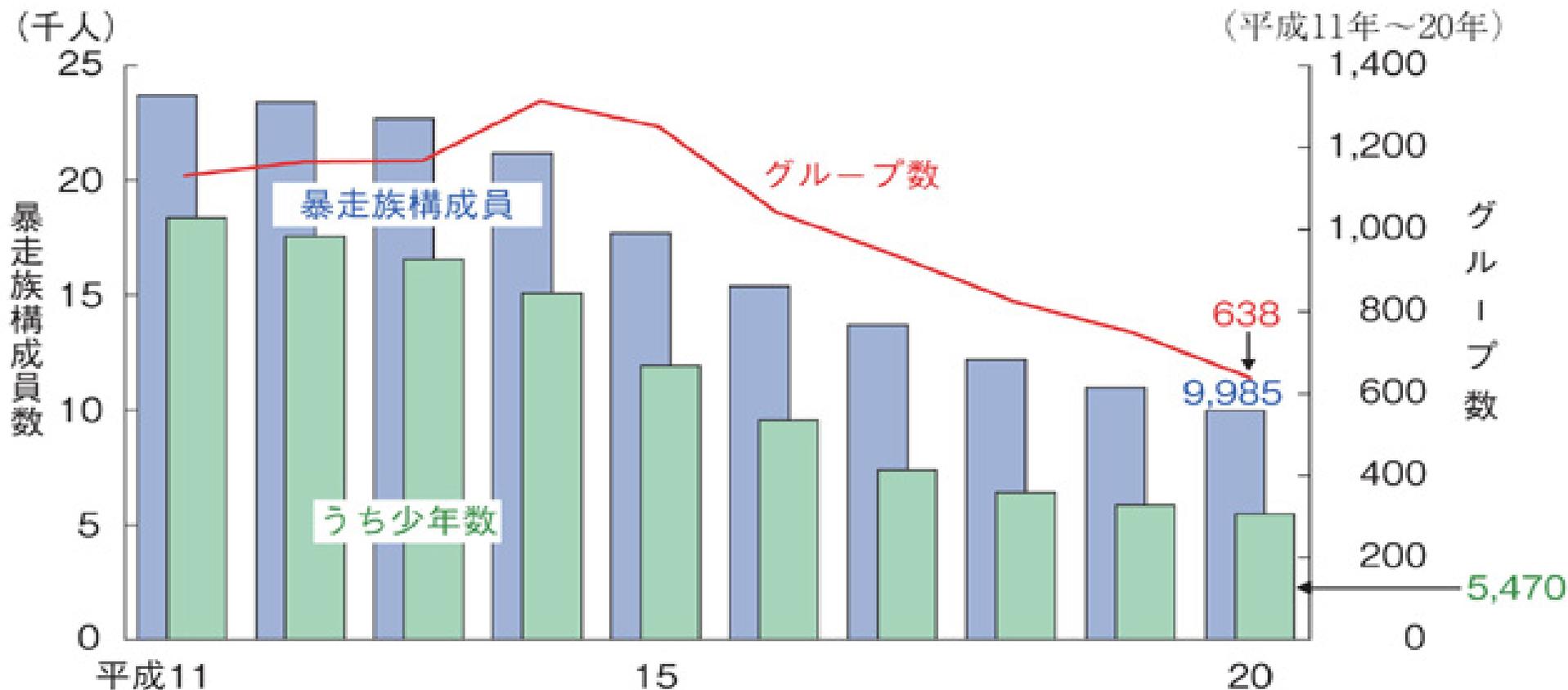
社会の成長



世代間ギャップの縮小

# 暴走族の構成員数・グループ数の推移

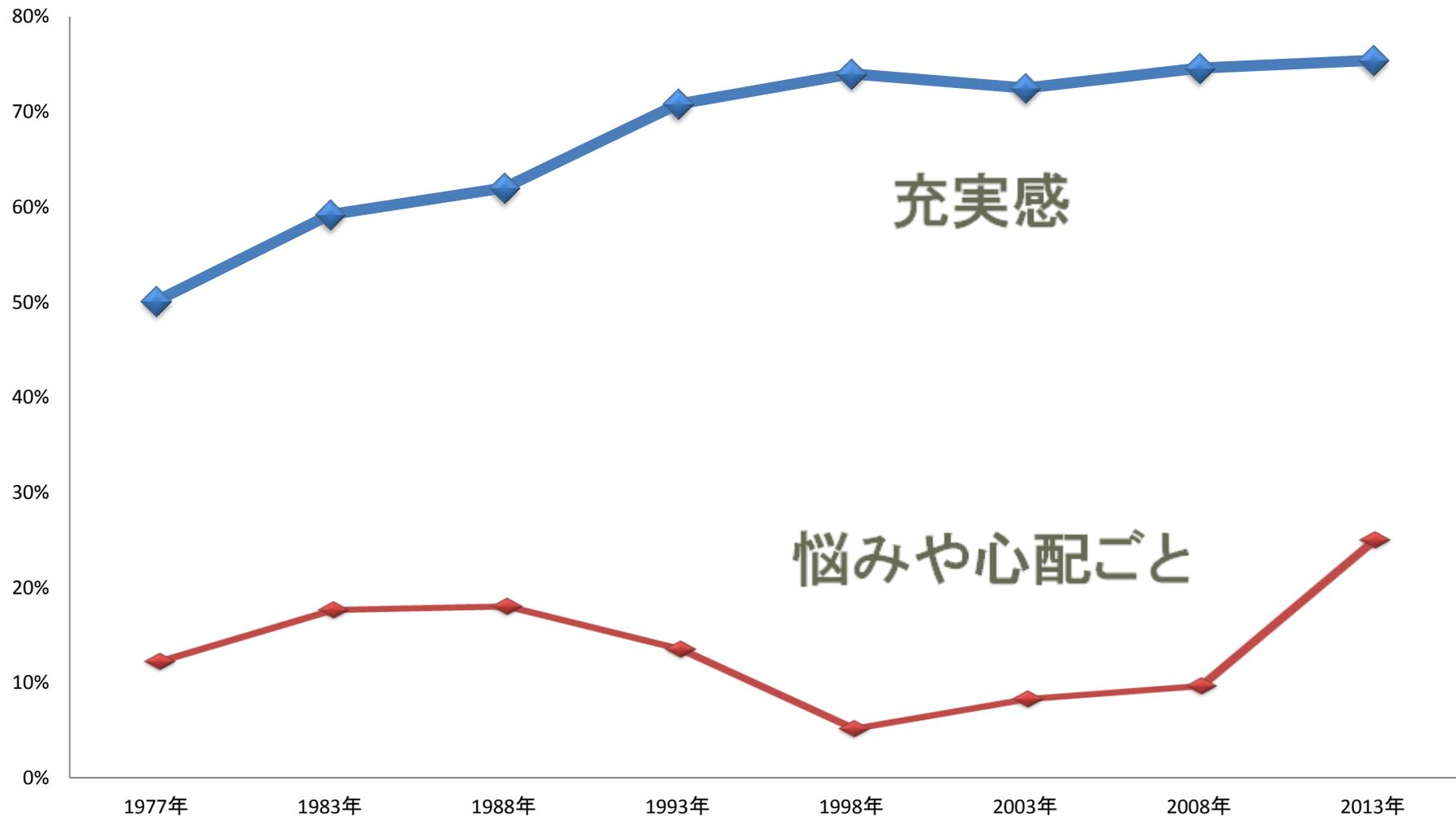
(法務省「犯罪白書」から転載)



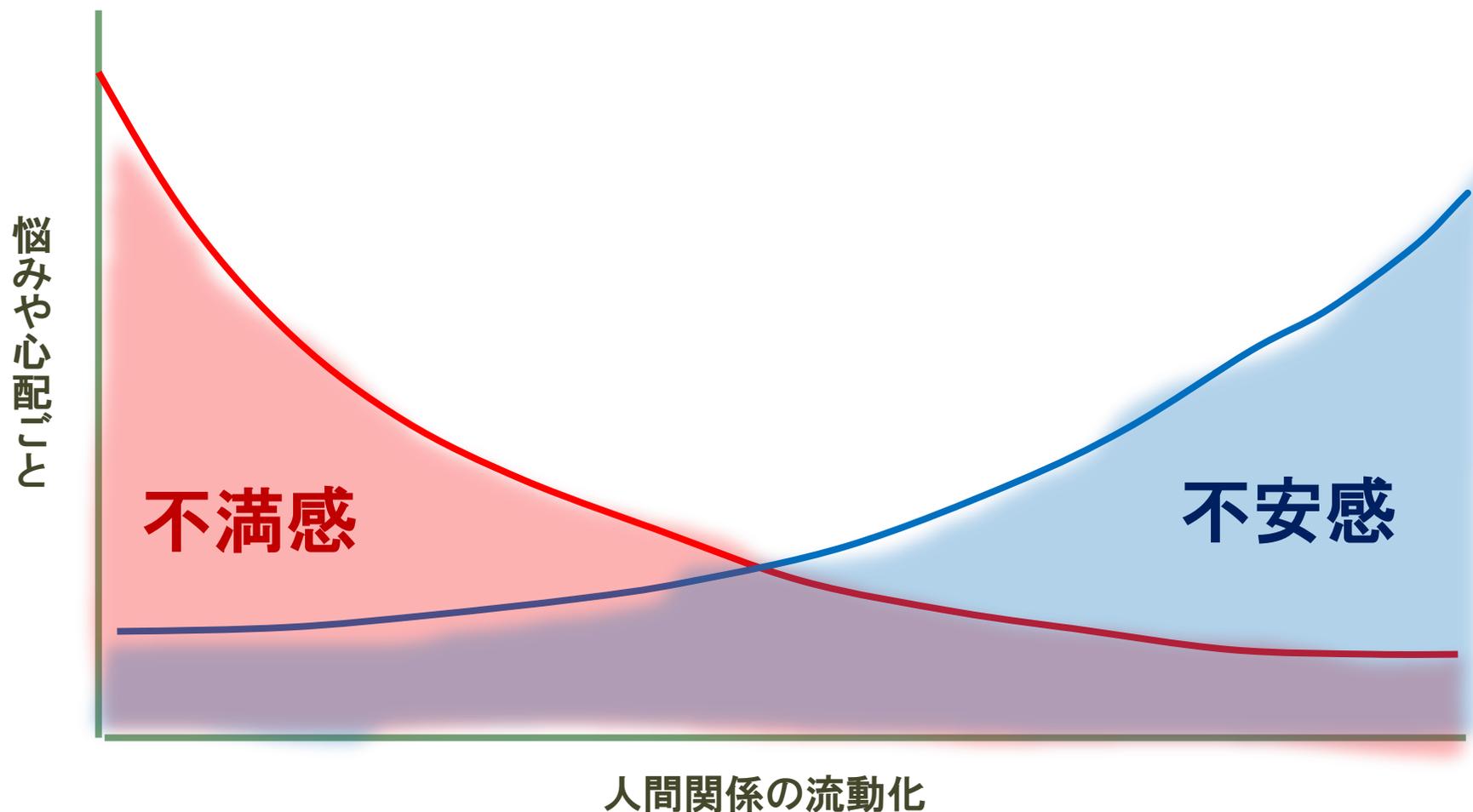
## 対抗文化の衰退

# 友人や仲間との関係に...

(内閣府「世界青年意識調査」から作成)



# 人間関係の流動化と悩みの質的变化



# 子どもの自傷行為の実態

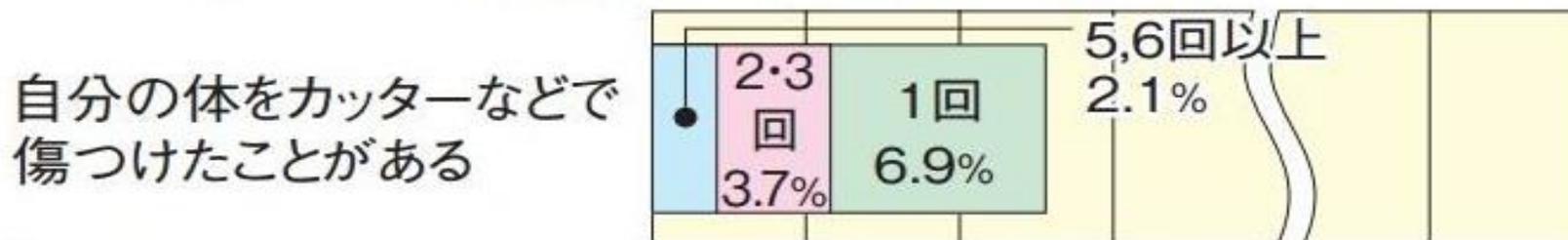
(文部科学省「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」(2009年)から転載)



(全国高等学校PTA連合会2006年意識調査,高2 6406人)



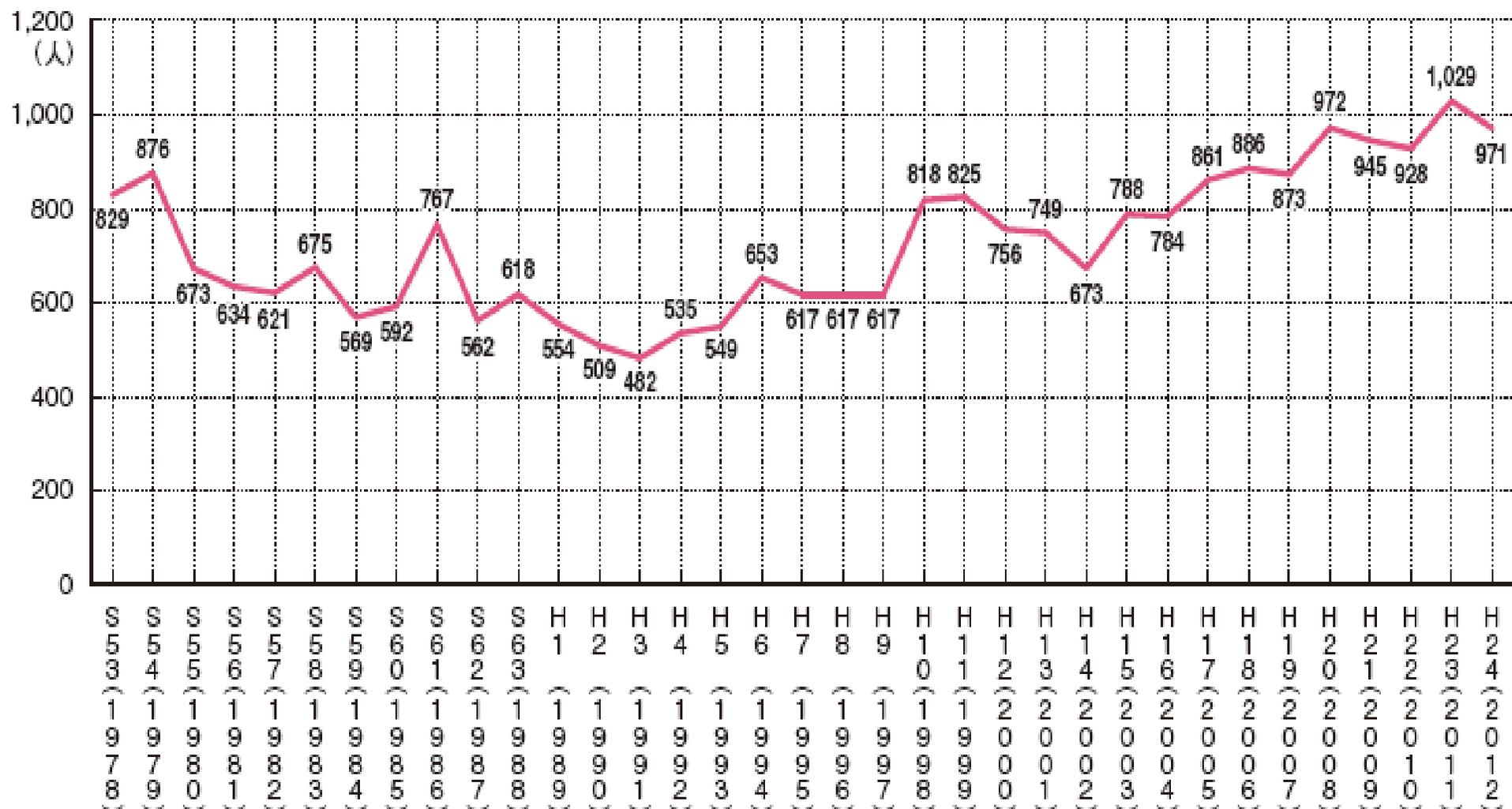
(松本俊彦・今村扶美2005～2006年調査,中・高校生 2974人  
(中学生・高校生における自傷行為, Psychiatry and clinical neurosciences 62 : 2008)



(兵庫・生と死を考える会2004年調査,小5～中2 2189人  
(いのちの大切さを実感させる教育のあり方, 財)21世紀ヒューマンケア研究機構,2005)

# 学生・生徒の自殺者数の推移

(内閣府「自殺対策」から転載)



# 各年齢階級の合計に占める自殺の動機の割合(平成24年)

(内閣府「自殺対策」から転載)

